

で活用できないかと申入れがあり、調整を進めている。特別なブランド名は無くても、牧草で育ったランク付けの高い牛肉を売りに町の特産品に出来ればと考えている。

質問 飼育農家の今後の支援策をどのように考えているか。

町長 あくまで試験段階であり、具体的な支援については状況等を鑑み、検討する。町産の優れた黒毛和牛に付加価値を付け、特産品に出来ればと考えている。



齋賀 弘孝

町政執行方針について

町政執行方針について

質問 昨年は「まちの魅力が高まっていきます」と確信していた文書だったが、

今年は「まちの魅力を高めていくものと考えます」となっている。弱気になったのでは。

町長 誰しもが同様に考えるとは限らないことを考慮し、同調を求める表現としては、

「夢をはぐくむ町（ほろのべ）」を創るべく、粉骨砕身の思いで励んでいくことを改めて表明する。

質問 道の駅施設整備は、町長の任期残り3年でどこまで話を進めたいのか。

町長 具体的な整備計画等の政策には至っていないが、地域住民に配慮した施設の在り方や必要な機能等、概ね方向性についてはまとまっています。

質問 町長の任期中にもつと前に話を進めるのであれば、町の構想を具体的に出し、それに意見をもらい、スピードアップを図るべきでは。

町長 以前だと意見集約で大まかな形ができた。これからは利用する方と合意形成できるようにアイデアを頂き、それを選択し、最終的に意見を聞きながら決定させていきたい。

町長 この事業だけでも億の単位が動くため、10年20年先を見据えた時、人がどう賑わうかを真剣に議論したく、時間がかかっている。

質問 農業分野に地域おこし協力隊の活用はどうか。

町長 現在、酪農戸数は減少しているが、酪農由来の農業形態は広がりを見せている。地域を担う基盤が弱い弱になりつつあることか

ら、これまでの新規就農対策に加え、農業分野での地域おこし協力隊の活用も必要な状況になりつつあると感じている。

質問 では、どのように取り組んでいくのか。

町長 支援組織も複数存在しており、様々な分野での体験を通じ、自ら希望する経営形態での就農、就職により、本町農業を支援してくれる大変有意義な取り組みとなる可能性も高いので、他町の取り組みも参考として検討を進めたい。

質問 極端に利用の少ない駅の存廃についてのJR北海道の対応はどうなっているのか。

町長 過去5年間1日平均3人以下の極端に利用の少ない無人駅を廃止か自治体による管理とするかの方針を、令和2年3月10日までに示すよう通知があった。

質問 幌延町の場合は。

町長 幌延駅を除く7つの無人駅全てが対象となっている。

利用状況、維持管理費用等を鑑みても7駅全てを維



質問 ふるさと応援寄附金「あなたが守る秘境駅プロジェクト・マイステーション運動」の今年度の寄附件数と額は。

町長 2百4件。2百37万5千円頂いている。

質問 毎年度増える寄附金に、どのように使われたか町長からお礼のハガキを送ってはどうか。

町長 ご協力いただける皆さんを大事にすること、見ず知らずのところで納税していただく方々をもっと大事にするための施策を協議しながら考えていきたい。